



西岡自然パネル

in 湿原報告書

～木道安全管理のための
現地見学会

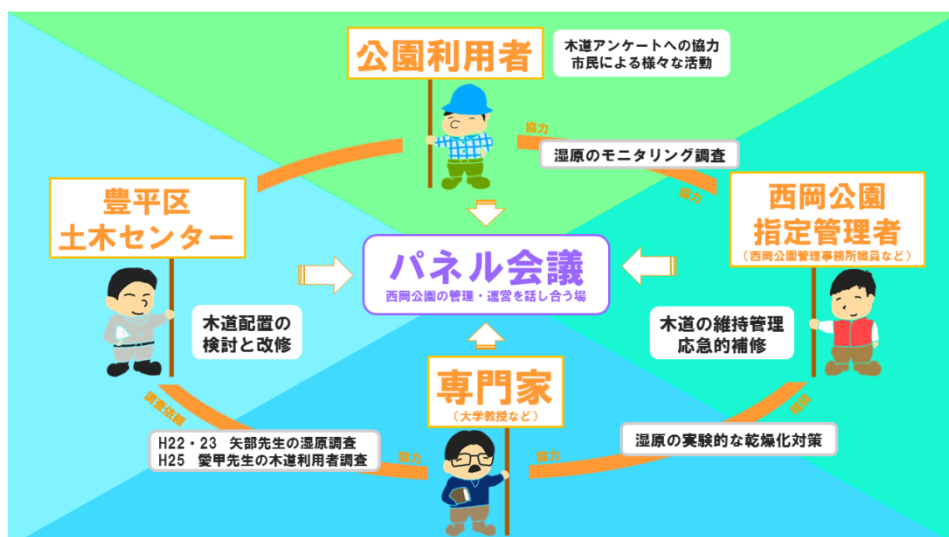
平成 28 年 5 月 22 日
13 時～15 時
西岡公園

現在、木道の老朽化が心配されている西岡公園の木道に関して、平成 28 年 1 月 30 日の自然パネル会議において、一部を撤去するという話し合いをしました。このパネル会議での話し合いでは、撤去を予定している木道に関して、“本当に撤去する必要があるのか？”、“木道が湿原の乾燥化の一因となっているのか？”といった質問の声がありました。

西岡パネル会議 in 湿原では、雪解け後の湿原の水路の状況や木道の損傷状況などを、現地で確認しました。

パネルとは？

西岡自然パネルは、平成 12 年に発足した、西岡公園の維持管理について、行政と市民が話し合う場、行政とコミュニケーションを図る場として個人・団体に開かれた話し合いの場です。またパネルの場で解決できない大きな問題は、専門家の意見や調査結果に基づいて、ワークショップなどを実施して方針を決定するような進め方をしている。パネルとは「討論する場」を意味しており、毎年定期的にパネル会議を開催し、様々な議題について話し合いを続けている。



* 参加者の所属団体

(順不同)

森の工作、ガイドボランティア、
自然遊びの会遊木森森、
西岡公園植物の会、西岡マダム、
ニハルクラブ
北海道大学農学部、札幌市立大学
札幌市豊平区土木部、
西岡公園指定管理者（公財）札幌
市公園緑化協会
ほか

1. 湿原の現地見学

○歩いたルート

湿原では、水路の状況を確認しながら、老朽化が著しい東側の木道を中心に歩いた。



○専門家の解説を元に現地で確認したこと（抜粋）

- ・台風などの大雨で、湿原内に大量の土砂が流れ込むことで、流路が変化する。
- ・流路は 5～10 年単位で変化しており、今後の変化を予測することは難しい。
- ・木道が設置されている場所では、植生が被覆され、根茎の形成がなされないこと、木道の支柱になっている杭に水が当たることで洗掘を受けやすくなっていることで、木道直下の流路が形成されている。
- ・平成 27 年度に流路の変更実験を行った場所は、湿原内に水が流れるようになっていたが、上流からの水量が増えたことで、予想より水位の低下が見られていない。
- ・東側木道のうち、特に流路変更実験場所付近は、水深が 90cm ほどもあり、子どもが転落した場合非常に危険である。

2. 木道に関する検討（豊平区土木センターより）

現在、木道が劣化しており、不満、不安を感じながらも観察できる環境を維持したいという思いがあると感じている。一方で、毎年、補修に多大な労力・費用をかけながらも、年々安全管理が大変になっていることを課題と考えている。

今回の現地見学会では、木道の劣化だけでなく、専門家の調査を踏まえて湿原の現状を見ていただくことができた。

今後の木道のあり方について、豊平区土木部の考

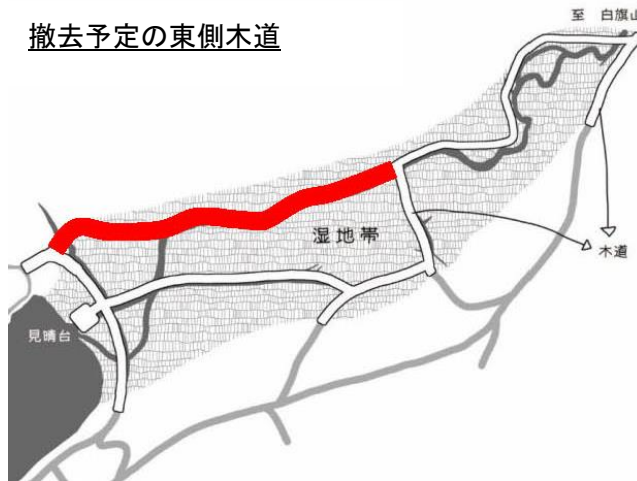
え方を説明したい。

（１）木道撤去の考え方

①撤去予定の木道と時期

増水時は冠水し、劣化も進み、木道下が水路になり乾燥化を招いている「東側木道」を対象に、時期

撤去予定の東側木道



は、今年度の秋以降の撤去を考えている。

②撤去の理由

施設の劣化が進み、補修の限界もあり、安全面の課題が非常に大きくなっていることと、湿原の乾燥化対策になるという 2 点を重視している。

乾燥化の理由は、地形（低地に水が集まることと傾斜方向に水が流れること）と、植物の繁殖との関係（木道の直下で植物が育たず、水路形成が促されること）があげられる。現在、東側の木道は、このプロセスがかなり進行した状態で、問題があると考えている。

③木道撤去の課題

観察活動への影響を考え、出来る限り早く新たな木道設置に向けた計画案をまとめていきたいと考えている。この際の大きな視点は、現在の問題の解消しつつ、観察に必要な配置、維持管理費用の適正なども考慮することとし、皆さんの意見を聞きながら考えたい。

（２）今後の木道整備の進め方

①木道設置の考え方

1 つ目は水の流れに沿わないように出来る限り南北軸を避け、東西軸となるように配置を考えると、2 つ目は全体の延長を短くすること、3 つ目は動植物の生態・植生、観察ポイントに配慮した配置にすること。

3 つ目について、景観面の検討も必要であり、ヤナギ管理も観察ポイントへの配慮として考える。

②スケジュールと検討の方法

これまでに、大きな方向性は整理されつつあるの
で、今後はより具体的な木道の整備計画を作ること
を考えていきたい。

今年度は、計画作りの進め方を議論し、平成 29
年度に具体的な計画を作るための検討業務を発注
したいと考えている。

③業務内容のイメージ

「現地踏査」「資料整理」「木道配置検討」を考え
ている。現地踏査では、地形や水流を概要として把
握する。資料整理では、これまで関わっていただ
いた専門家の調査を含め、活動団体の活動状況や観察
ポイント、活動時期も把握したい。それらを元に、
木道の配置を検討したいと考えている。

単年度で調査が不十分であれば、複数年に及ぶこ
とも考えている。

提案を受けて出された意見・質疑（抜粋）

※→以下は札幌市の回答

・撤去した後、水路が残るのか埋めてしまうのか。
→人工的に埋めてしまうのか土のうのようなもの
で様子を見るのかというのは、議論があるところ
だと思う。

・木道の廃道をそのままにしておくと、植生が回
復できないので、植生を回復させたいのであれば
早く撤去した方が良い。

→28 年度に撤去を行います。

・この案だと撤去して、観察路を作るまでは 1 年
から 1 年半くらいかかる。ということは、撤去し
た後の状況を見て、新しい木道が必要ないとなれ
ば必要ないでよいのでは。

・木道が撤去されて心配なのは、私有地への通り
抜けが増えること。

・木道の一部分を残しておいて、撤去後の川の流
れの変化を観察できるようにしても良い。しかし、
効果が現れるまで 1～2 年必要になるから、新規
ルートを検討と、並行して進めるのが良い。

・今後のための知見として情報を集めるのであれ
ば、木道を段階的に外すのも良い。

・もともと危険で撤去したという話は誰もが納得
すると思うが、新規ルートについては、たくさん

の利用者の意見を集約したらよい。

・愛甲先生の行った木道の利用者数調査では、木
道を歩く人の 3～4 割は東側の木道を歩いている
ということが分かった。木道は大きな魅力であり、
長い距離を周回できるので使われている人も多い
だろう。

・今日歩いて改めて思ったが、一冬経つと 90 c
m 幅の木道ですら老朽化が目立っていた。また、
横断の勾配がきつくなっている、子どもや高齢者
が歩くのに危険がないか、心配になった。

・木道はずっと安定して置いておくものではなく、
状況にあわせて取ったり変えたりするものだ。地
域の方の歩く楽しみもあると思うが、札幌市とし
て老朽化の危険を伝え、利用者の理解を得てほし
い。

・今後、湿原の景観をより楽しむためにヤナギを
どうするかも議論していきたい。

～札幌市より～

東側木道を撤去することについては了承いただ
けたということで話を進めていきます。

一時的に不便をおかけすることになると思いま
すが、より良い木道になるように次の作業を進め
て参りますのでご理解いただければと思います。

また、植生の動植物の変化は観察されている皆
さまがよくご存じのことでもあると思いますので、
事務所経由で情報を寄せ下さい。ご協力をお願い
します。

